

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：33918

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K13002

研究課題名（和文）障害とソーシャル・キャピタルの関連性に関する研究

研究課題名（英文）Study about relationship with disability and social capital

研究代表者

田中 紗和子（TANAKA, Sawako）

日本福祉大学・アジア福祉社会開発研究センター・客員研究所員

研究者番号：90732850

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、地域におけるソーシャルキャピタルとして、「作業」を介した人々の多様な関係が生み出される過程を明らかにすることを目的に文献調査とフィールドワークを行った。具体的には、障害のある人と福祉職員が集まる居場所づくりを事例として、「支援-被支援」関係を相対化しながら、人々の関係変容に応じて、事例の活動全体が変化していく過程を明らかにした。結果、作業を介することで、「支援-被支援」関係を含む、多様な人々の関係が形成され、それらの関係は状況に応じて変化していた。同時に、人々の関係変容に応じた活動内容の調整が、人々が相互に見守り支え合う関係につながることを示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、社会的に排除に晒されやすい障害者、そして、日常的には障害者を支援する立場にいる福祉に携わる者を対象とした居場所づくりにおいて行われる作業に着目し、地域福祉の現場に見られる「支援-被支援」関係を否定することなく、その関係も含めた人々の関係について論じたことである。本研究の成果は、地域福祉実践における人々の関係および、介入としての作業の新たな見方を提示したことである。本研究の成果が、ひいては、地域社会におけるソーシャルキャピタルの強化につながると考える。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the process of creating various relationships among people through “occupation” as social capital in the community. The research method is qualitative research based on literature review and fieldwork. The case study is a practice of “creating a place to belong” by people with disabilities and welfare workers. In this study, we attempted to relativize the “supportive - supported” relationship in the community practice. The study clarified the process of change in the relationship between the participants as well as in the community practice itself.

As a result, relationships among diverse people were formed through occupation, and these relationships varied depending on the situation. At the same time, it was suggested that the coordination of activities according to those situations leads to a supportive relationship.

研究分野：地域福祉

キーワード：地域福祉 作業 人々の関係 居場所づくり 障害 開発福祉

## 1. 研究開始当初の背景

国連による障害者の権利条約や持続可能な開発目標 (SDGs) など、「誰一人取り残さない」社会を実現するために、障害を貧困削減の目標に包摂することの重要性への認識は高まっている。一方で、より貧困な地域で暮らす障害者や重度障害者など、様々な理由により市場や制度から排除されている人々が一定数存在する。本研究は、「排除は個人の能力ではなく人々の関係性の問題である」という問題意識に基づく。そこで、信頼や規範、ネットワーク (人々のつながり) といった「目に見えないモノ」に着目し、それらを社会の成長、発展、開発にとって有用な資源と捉え、経済的資本と同様に計測可能かつ蓄積可能な「資本」として位置付け (佐藤 2001) 複雑な人間の関係性を整理し説明する概念であるソーシャル・キャピタル (以下、SC) の概念を参考に研究を進める。近年 SC に関する研究は、国内外で経済学や経営学、社会学を始めとする多分野においてなされている。しかしながら、障害と SC の関連についての研究は少ないのが現状である。一方で田中 (2018) は、ニカラグアでの障害児支援において、障害児の母親や施設職員と始めたビーズ手芸活動における人々の関係変容が地域社会とのつながりへと展開したプロセスを作業療法の文脈を通じて明らかにしている。そこで、本研究では、SC の概念に加え、人と人との関係に影響を及ぼす要因として、作業療法における「作業」の概念に着目することとした。

## 2. 研究の目的

本研究では、地域社会における SC として、「作業」を介して人々の多様な関係が生み出される過程を明らかにすることを目的とした。具体的には、「作業」を介した「支援者 被支援者」関係を相対化しながら、事例における人々の相互関係を明らかにするとともに、人々の関係変容に応じて、事例の活動全体が変化していく過程を明らかにすることを試みた。

## 3. 研究の方法

本研究は文献調査とフィールドワークによる質的研究から成る。

### (1) 文献調査

近年の医療・福祉における社会の変化に、作業療法がどのように応じてきたかを踏まえた上で、地域における作業療法での作業の特徴と役割を明らかにすることを目的として文献調査を行った。日本の作業療法における作業の動向を辿ることができるよう作業療法の創設期から刊行されている「理学療法と作業療法」「作業療法ジャーナル」「作業療法」を対象とし、作業と人々の関係について記載されている 40 文献を抽出した。続いて、作業療法の実施機関 (以下、実施機関) を、「医療機関」, 医療機関と地域の間として「通所系サービス」, 「地域」の 3 つに分類した。文献数は、医療機関 20 件、通所系サービス 6 件、地域 14 件であった。

分析では、実施機関ごとの年代別文献数、作業の実践状況、人々の関係に関する文献中の記載箇所数の比較から、作業療法の動向を明らかにした。次に、地域に分類した文献 14 件を精読し、地域における作業療法の特性を、参加者や手段、年代ごとの特徴を明らかにした。続いて、地域における作業療法の実践事例を「人々の関係」, 「人々の意識と行動」, 「経時的な人々の関係や場の変化」といった視点から捉え直し、取り上げた事例に共通する点を挙げ、地域における作業療法での作業の特徴と役割について分析した。

### (2) フィールドワーク

研究開始当初は、中米ニカラグアの障害児支援の中核となる NGO の地域支部における青少年

活動を事例として予定していたが、ニカラグアの治安悪化や、COVID-19 の感染拡大により海外渡航が困難となったため、2018 年 4 月より参加をしていた千葉県で行われているひきこもりの経験者や精神障害のある人と福祉職として働く人々が集まって食事会をする居場所づくりへ事例を変更した。フィールドワークでは、その活動には、誰が、どこで、どのような作業を、どのように行っているのか、作業を介してどのような人々の関係が生じているのか、作業を介して生じる人々の関係は、そこに関わる人々にとってどのような意味をもつのかという視点から参与観察およびインタビュー調査を行った。インタビュー調査は、活動内容を決めているメンバー（5 名）とのフォーカスグループインタビューおよび、参加経験者（地域福祉の支援者として勤務している者 4 名、精神障害や引きこもりの経験がある者 8 名。参加を中止した者を含む）12 名に対する個別インタビューを実施した。フォーカスグループインタビューでは、活動が始まってからこれまでの食事メニューや主な出来事、ミーティングの内容をまとめた資料を準備し、資料を参照しながら、場所の変遷や参加者の特徴などを振り返りながら自由に会話する形式で行った。メニュー決定のポイントや食事以外のプログラムを入れる理由など作業と人々の関係を明らかにするために重要と思われる点については、調査者が質問を投げかけたり、話を深掘りしたりした。個別インタビューでは、参加したきっかけ、初参加の様子、参加時の過ごし方、印象に残っている出来事、活動と日常生活とのつながり、参加しなくなった経緯などを基本の質問とした非構造化インタビューを行った。

#### 4．研究成果

##### （1）近年の地域作業療法における作業の特徴と役割

文献調査の結果、地域における作業療法では、障害の有無や立場に関係なく参加者が共に作業を展開する場づくりが多く行われていることが明らかになった。その中で作業は、共通の話題や共感の対象となることで、自然な交流を促すという特徴を生かし、人々の相互関係や、意識と行動に変化をもたらす役割を果たし、参加者同士が作業を介して時間と場を共有することの積み重ねは、支え合う関係や心の拠り所となるような場の雰囲気の変化をも生みだしていることが示唆された。このように、地域における作業療法では、人々の相互関係に目を向けることの重要性が示された。

本調査結果は、「地域における「作業」を介した人々の関係形成 作業療法の動向をめぐる文献調査から」として、福祉社会開発研究、第 17 号（2022 年 3 月）に発表した。

##### （2）作業を介した人々の関係変容と意義

フィールドワークにおける参与観察とインタビュー調査の結果、活動で行われる「作業」（本事例における主作業は調理）が、参加の形態を増やし、人々の関係を創出する、時間を進める、何もしなくても居やすくする、自分たちの活動を作るという認識を高めるといった役割を果たすことが、参加者間の関係形成や変容に繋がっていた。例えば、福祉職と障害者という日常的には「支援 - 被支援」関係にある者が、調理を介することで、同じ作業をする仲間関係となったり、もしくは、日常の関係とは反対の「支援 - 被支援」関係（調理を教える、教えられる関係）となったり、日常における立場によらない人々の関係が状況に応じて変化していた。事例は、学校、職場、施設、自宅とは異なるプライベートとも完全に社会的な場所とも言えない場所であるため、特にこうした関係変化が生じやすいことが示唆された。活動を通じて、参加者は、人間関係の拡大、人との交流によって生じる自己の探求、活動参加に向けた試行錯誤、自分らしさの発揮といった経験をしていることが分かった。

### (3) 作業を介した人々の相互関係を捉える視点

フィールドワークでは、参加者同士の関係ができてきて、小グループなどができる则会話が主となり、作業の必要性は低下することが明らかになり、活動における人々の関係の状況に応じて、活動内容を調整していくことが、参加者同士の相互に見守り支え合う関係につながることを示唆された。本研究において、作業が人々の関係にどのような影響を及ぼすのかを明らかにすることを通じて、作業を介した人々の関係を捉えるためには、個々の関係だけでなく、活動全体の中で人々の関係がどのように生じているのかといった過程も合わせて見ていく必要があることが明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 田中紗和子・中村美緒	4. 巻 17
2. 論文標題 地域における「作業」を介した人々の関係形成 作業療法の動向をめぐる文献調査から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福祉社会開発研究	6. 最初と最後の頁 51 59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 SawakoTANAKA
2. 発表標題 Survey of awareness of community residents regarding the community life of persons with disability in Nicaragua
3. 学会等名 WFOT International Congress 2022（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田中紗和子、中村美緒、久野研二
2. 発表標題 作業を介した人と人との関係に関する文献調査
3. 学会等名 第54回日本作業療法学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------